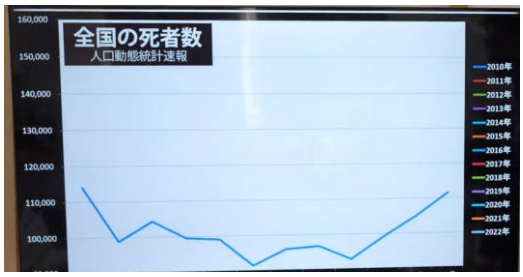
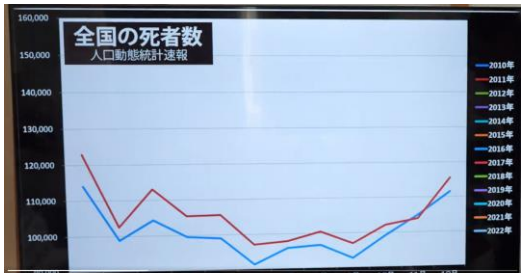
「死者急増の異常事態」

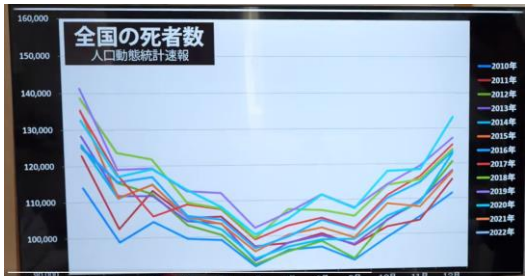
これまで国民の８割以上がコロナワクチンを接種し、追加接種回数・接種率でダントツの世界一となった日本ですが、世界ではその遺伝子注射の安全性有効性が疑問視され接種が中止となる国も増えてきています。日本政府は５月８日にコロナの分類を５類に引き下げる方針を固め、同時に基礎疾患を有する方以外はコロナワクチン接種の「努力義務」「接種勧奨」から除外することにしていますが、６月からは高齢者などへの６回目接種を開始し、９月からは一般への接種も予定されています。過去 44 年間でワクチンによる死亡認定を受けた方は年平均約３人でした。しかし、コロナワクチンは２年間で既に４１人が死亡の認定を受けています。しかも、被害届が受理された審査待ち件数が約５千人。これからどんどん増えると予想されます。更に、その数すらも氷山の一角である可能性も厚労省の公式データから示唆され始めている現状です。



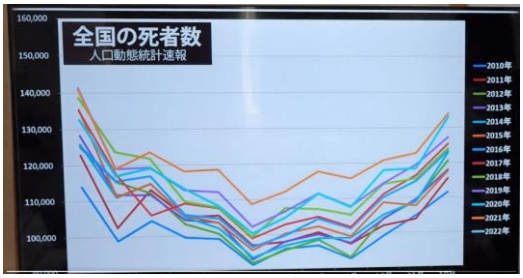
日本全国の１年間の死者数の推移を示したグラフです👆2010 年はこんな感じでした。



東日本大震災が起こった 2011 年（赤）の死者数👆３月の死者は前年より大幅に増えました。



2010～2020 までの死者数👆高齢化のため少しずつ増えてはいます。



2021 年（橙）は４月頃から急激に増加傾向👆一般への接種が始まったのが同年４月から。

←3 回目以降の接種が始まった 2022 年（水色）は異次元の死者増加‼この死者急増を厚労省は原因不明で片付けています。主に亡くなっているのは高齢者。高齢者の命を守ると言い感染対策をした結果、戦後最大の死者増加。この異常事態を検証もせずに放置している政府。そんな政府を信用して貴方は接種を続けますか？